



今回は仕事で私の実家がある熊本県水俣市と鹿児島県出水市との県境に行ってきました。中学校まで過ごした故郷水俣ですが、こんな場所があったのか！と驚いてしまいました。

明治時代に国道が建設されるまで、鹿児島（旧薩摩藩）では城下から3つの街道があり、それぞれ筋と呼ばれていました。宮崎高岡を通る日向高岡筋、加治木から大口を経て水俣へ通じる大口筋、そして川内から出水へと向かう出水筋（薩摩街道）です。そのひとつ薩摩街道は肥後藩熊本城下の札の辻（熊本市中央区新町）と薩摩藩鶴丸城下の西田橋とを結んだ街道のことです。主要な幹線としては古くから往来が盛んで、時には薩摩と肥後の攻防の舞台となりました。西南戦争のときは薩摩軍の北上ルートにもなりました。また、同時に物資や異文化に接することが出来る交流の道でもあったそうです。豊臣秀吉や参勤交代の薩摩藩主島津、先日、大河ドラマ「西郷どん」で安政の大獄で追われる身となり、京都を脱出した僧月照や西郷隆盛もこの街道を通りました。

関ヶ原の戦いの前後に野間之関は肥後藩と薩摩藩の国境の領地として6ヶ所に番所が置かれて、水も漏らさぬ厳しさだったそうです。その野間之関に西南戦争後明治16年（1883年）に架けられた橋が右の写真の「さかい橋」です。藩境であるため、防衛の必要からそれまでは橋はなかったそうです。この橋を境に鹿児島県と熊本県に分かれます。

いかがでしょうか。この石工によって建造された趣のある橋は。橋の上にはきちんと整備された芝が生えており、その橋の下には今にも手ですくいたくなるようなきれいな水がゆっくりと流れていました。まるでタイムスリップしたようでした。その橋に立ち、少し見上げたところに肥薩おれんじ鉄道の線路がありました。数十分ほど、散策しているところに昔を思い出させてくれる一両編成の列車が通り、これまたいい気分になってくれました。

